

6 固定資産と資金調達の関係

- 資金の調達と運用のバランスを評価する
- 固定比率の見方

CASE 考えてみよう!

銀行のパンフレットを見ていた田代さんは、短期借入金の金利が、長期借入金の金利よりも低いことに気づきました。「これだったら、すべて短期で借り入れたほうが有利だろうに」と思ったのですが……。

資産と負債のバランスを見る

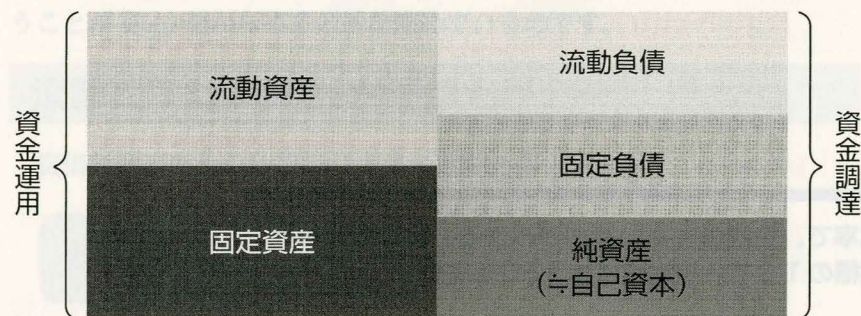
たしかに、普通は短期借入金の利率は、長期借入金よりも低いので、短期借入金で毎年借り入れたほうが有利です。しかし、短期借入金は、短い期間で返済していくものですから、借入れを継続しようとする、そのつど手続きをしなければなりません。銀行から「今回は借り換えを認めません」などと言われたら、それでおしまいです。

季節的な資金需要（たとえばボーナス資金）のように、ごく一時的な借入れですむのであれば、金利の安い短期借入で行うのがよいでしょう。しかし、長期間、借り入れる必要があるのであれば、長期借入によって、資金の安定化を図るのが望ましいのです。

貸借対照表の構成をよく考えると、右側の負債や純資産は、資金をどのように調達したかを意味しています。逆に、左側の資産は、資金をど

短期借入金
銀行などからの借入金のうち、1年以内に返済するもの。

長期借入金
銀行などからの借入金のうち、1年を超えて返済する予定のもの。



のように運用しているかを示しています。

そう考えてみると、貸借対照表によって、資金の調達と運用のバランスを評価することができそうです。

もっとも安心な資金調達方法

機械を購入したときのことを考えてみましょう。

短期借入金で借り入れるのがコスト的には安かったとしても、機械が本格稼働し、利益を生み出すまでには時間がかかります。短期借入金では返済期日がすぐにきてしまい、資金繰りに困ってしまいます。

ですから、機械などの購入の場合は、長期借入金などの固定負債で資金調達するのがよいことになります。しかし、もっとよいのが、自己資本（≒純資産）による資金調達です。

自己資本は返済の必要性がありませんから、もっとも安心な資金調達方法なのです。このような観点から、現在ある固定資産と自己資本とを比較したのが**固定比率**です。

$$\text{固定比率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}}$$

自己資本は、第1章（12ページ）でもふれたように、純資産から新株予約権（連結決算では、そのほか少数株主持分）を差し引いたものですが、新株予約権は金額的に少ないことが多く、単独決算においては、純資産と自己資本は同じと考えてよいと考えられます（連結では、少数株主持分の金額の大小はマチマチ）。

固定比率は低いほうがよいことを確認してください。

固定資産への資金調達を、自己資本で完全にまかなえたとしたら、すばらしいことです。つまり、固定比率が100%以下であれば、非常に安定した企業といえるわけです。

学習ポイント

固定資産の資金調達は、自己資本でまかなうのが理想的で、固定比率は低いほうがよい。